

学長メッセージ

長浜バイオ大学が目指すもの



三輪 正直

みわ・まさなお 長浜バイオ大学学長／長浜バイオ大学教授／医学博士(東京大学)
▶東京大学医学部卒、国立がんセンター研究所ウイルス部長、副所長、筑波大学教授、同大学院医学研究科長、基礎医学系長、同人間総合科学研究科教授を歴任
▶筑波大学名誉教授
【専門分野】動物病態学、分子腫瘍学、翻訳後修飾

2003年の開学以来、本学では1648名の学部卒業生と170名の修士課程、10名の博士課程の学生を送り出すことが出来ました。彼らは本学の卒業生として誇りを持って、社会のそれぞれの持ち場で活躍しておられることと思います。

2007年度には大学院創設、2009年度には、従来のバイオサイエンス学科に加えて、アニマルバイオサイエンス学科、コンピュータバイオサイエンス学科を新設し1学部3学科体制に移行し、現在の‘総合的にバイオを学ぶ’長浜バイオ大学が完成いたしました。2013年度には、大学院前期課程の入学定員を6名増員し36名として大学院の充実を図りつつあります。

2008年度には、文部科学省の大学間連携事業が採択され、「びわこバイオ医療大学間連携プロジェクト」を滋賀医科大学と共同で、「バイオ医療学」というユニークな学問領域を創設、運営いたしております。本学が新しい3D技術を用いて、脳や骨格標本の教材を開発し、一方、本学学生が医学生物学や人体解剖学講義・実習などに参加することで、滋賀医科大学には教育貢献をさせていただいております。2009年度には、iPhoneなどの携帯端末を活用した「バイオ学習ワンダーランド」と称する学習支援事業が文部科学省から採択され、自学・自習の修学スタイルの確立、双方向性の学習の場の構築、学習力と就業力の向上などの効果を期待して実施・運営されています。さらに、2010年度は、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、2012年度からは、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」が採択され、地域との連携のもとキャリア教育にも力が入って参りました。このような新しい教育環境の整備と充実を図るために、本学では、学習・就業力支援機構を設置し、支援スタッフを配置して初年次教育の充実を図ってきました。なお、本学は2010年度の大学基準協会による大学評価の結果、大学の基準に適合し正会員として認定されました。

研究面では、2012年度には、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業が採択され、本学の強みを生かした「個体レベルの新規分子イメージング技術の開発とその有効性の検証」のテーマによる研究基盤形成に弾みがつきました。また朝日新聞社の大学ランキングによれば、2011年度の本学教員一人当たりの外部資金獲得額は新設大学の中では全国第2位、また同様に2012年度の教員一人当たりの科学研究費獲得額は新設大学の中で全国第1位となるなど、活発な研究活動が進みつつあります。2008年-2012年の間に出版された学術論文1論文あたりの被引用数は全国の大学の中でも第3位となっており、質の高い研究が行われていることがわかります。

今後、18歳人口の減少が続く中、また、バイオ系の学部学科が次々と開設される中、次の10年に向けて長浜バイオ大学の目指すべきものはいろいろありますが、私が考える中心的な課題は、

- 1)教員主体で知識を与えるだけの講義や実習のスタイルを変えること、その結果、学生が主体的に学び、社会に出ても生きていける力を身につけることが出来るような教育プログラムを作りあげること、
- 2)ゲノム情報を含めて洪水のようにあふれてくるような多くの情報(ビッグデータ)を、本学の特色であるバイオインフォマティクスの技術を駆使し、コンピュータを有効に活用してユニークなバイオサイエンスの教育研究、例えば再生医療や環境・植物分野を推進すること、
- 3)この地域の皆様に「長浜バイオ大学」が地元にあってよかったと喜んでいただけるような、地域に貢献する大学運営を目指すこと、
に集約されると考えております。